

令和四年一月十日発行
皇學館論叢第五十四卷第四号
抜刷

資料

野田宇太郎と雑誌『文学散歩』総目次

岡
野
裕
行

野田宇太郎と雑誌『文学散歩』総目次

岡 野 裕 行

一、雑誌『文学散歩』について

詩人・編集者として活躍した野田宇太郎（一九〇九～一九八四年）は、一九五〇年末に文学散歩を考案した人物として知られている。野田は一九五〇年代に全国各地の文学散歩関連図書を出版した後、一九六一年に「文学散歩友の会」を結成し、雑誌『文学散歩』を機関誌として発行することで、文学散歩の普及活動に取り組むようになる。「文学散歩友の会」の活動目的は、末尾の資料に示すように、その設立趣意に記されている。

本稿では、文学散歩という取組みを世の中に普及させるにあたり、野田宇太郎がその発展を企図して発行し続けてきた雑誌『文学散歩』の総目次を示すことで、今後の文学散歩研究の基

礎資料を提示したい。なお、雑誌『文学散歩』は第一号から第十号までは雪華社から発行されていたが、野田と版元との間に諍いが生じたため、第十一号から最終第二十五号までは、発行者が文学散歩友の会事務局へと変更されている。

二、雑誌『文学散歩』全二十五号総目次の凡例

雑誌『文学散歩』総目次の凡例は、次に示す通りである。

- ①各号の後に、発行年月、表紙意匠担当、表紙絵担当を記した。
- ②各号の記事ごとに四角記号（■）で区切った。
- ③各記事にサブタイトルがある場合は、ダッシュ記号（―）で区切った。
- ④各記事に特集名がある場合は、記事タイトルの前に記し、

記事タイトルとの間にイコール記号(＝)で結んだ。

⑤記事タイトルと著者名はスラッシュ記号(/)で区切った。

⑥著者名に役割を記す必要がある場合は、著者名の前に記し、間をイコール記号(＝)で結んだ。

⑦各記事名・著者名の後に、収録頁数を()内に記した。

三、雑誌『文学散歩』全二十五号総目次

『文学散歩』第二号 一九六一年一月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／鳥海青児

【目次】■曇日のシエナ／阿部徹雄(口絵)■創刊の言葉／野田宇太郎(1頁)■幕末オランダ人の描いた長崎風光／石田幹之助(2～13頁)■秋聲最後の日記／徳田一穂(14～19頁)■紅聲高小吟／遺稿短歌■吉井勇(20～23頁)■續せらぎ日記■あしおと／谷口吉郎(24～28頁)■文学散歩■文学の脚／野田宇太郎(29頁)■新フランス文学紀行■ル・ブルジェ湖畔／村松嘉津(30～39頁)■とげ／幸田文(40～42頁)■母の死／戸川エマ(42～43頁)■富士の画因／曾宮一念(44～46頁)■イタリア古都巡礼■マリアの都シエナの都市計画／三輪福松(47～53頁)■馬に似た枯木／若杉慧(54頁)■日本文学百景■雪／野田宇太郎

(55頁)■「文学散歩友の会」趣意・規約(56頁)■文学散歩友の会通信(57～63頁)■湖／高橋新吉(58～59頁)■本郷・東京文学散歩山の手篇1■本郷・小石川／野田宇太郎(64～77頁)■ロザリオ／小堀杏奴(78～84頁)■筆者紹介(85頁)■編集後記／桐後亭(85頁)

『文学散歩』第二号 一九六一年二月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／脇田和

【目次】■北京・稜恩門／北川桃雄(口絵)■文学者の旅■上田敏と旅／矢野峰人(1～4頁)■文学者の旅■荷風の旅／高橋邦太郎(4～7頁)■長城行／北川桃雄(8～15頁)■西欧の民家を描く／向井潤吉(16～18頁)■茨城ミイラ行脚／安藤更生(19～23頁)■ドン・キホーテの風車／写真と文■阿部徹雄(24頁)■日本文学百景2■故郷の廃家／野田宇太郎(25頁)■妻籠日記1／菊池重三郎(26～33頁)■新フランス文学紀行2■モンモランシー／村松嘉津(34～40頁)■南郷四季1■正月／築添明生(41～46頁)■文学散歩■日本文学の不幸は詩の分裂にある／野田宇太郎(47頁)■天拝古松／安西均(48～49頁)■アメリカの文学散歩／龍口直太郎(50～55頁)■文学散歩友の会通信(56～60頁)■友の会彙報(61頁)■「文学散歩友の会」規約

〔61頁〕■溪流唱／横田正知〔62頁〕■石／徳田一穂〔63頁〕■東京文学散歩山の手篇2■本郷・小石川／野田宇太郎〔64～75頁〕■日ハウス／江崎誠致〔76～83頁〕■筆者紹介〔84頁〕■編集後記／桐後亭〔84頁〕

『文学散歩』第三号 一九六一年三月 表紙意匠／谷口吉郎
表紙絵／海老原喜之助

【目次】■エジプト・ルクソールのエウエルゲート門／三輪福松〔口絵〕■架空庭園について／関川左木夫〔1～10頁〕■島原の城／劉寒吉〔11～17頁〕■ニューデリーの天文台遺跡／吉田穂高〔18頁〕■シラクーザのパピルス／阿部徹雄■文学者の旅3■漱石と旅／荒正人〔20～23頁〕■文学者の旅4■藤村の旅／瀬沼茂樹〔24～27頁〕■アンデルセンの町／高橋健二〔28～31頁〕■信州追分の浅間山／鱸利彦〔32～34頁〕■文学散歩Ⅱ国語改革と文学作品／野田宇太郎〔35頁〕■川明り／高田敏子〔36～37頁〕■現代奇人伝Ⅱ版画家谷中安規／高橋新吉〔38～47頁〕■文学散歩友の会通信〔48～53頁〕■イタリア古都巡礼Ⅱヴィナスの都シエナ／三輪福松〔54～61頁〕■南郷四季2■立春前後／築添明生〔62～67頁〕■「文学散歩友の会」規約〔67頁〕■父の庭／室生朝子、横田正知〔68頁〕■日本文学百景3■

天授庵の庭／野田宇太郎〔69頁〕■資料Ⅱ一葉の母の幼名／和田芳恵〔70～72頁〕■東京文学散歩山の手篇3■本郷・小石川／野田宇太郎〔74～87頁〕■筆者紹介〔88頁〕■編集後記／野田宇太郎〔88頁〕

『文学散歩』第四号 一九六一年四月 表紙意匠／谷口吉郎
表紙絵／奥村土午

【目次】■建仁寺の築地／桐後亭〔口絵〕■吉井勇の想い出Ⅱ吉井君を憶ふ／佐佐木信綱〔1～2頁〕■吉井勇の想い出Ⅱ吉井君と私と／里見弴〔2～8頁〕■吉井勇の想い出Ⅱ若き日の吉井勇／長田幹彦〔9～12頁〕■吉井勇の想い出Ⅱ「人間」の頃の吉井君／田中純〔12～14頁〕■吉井勇の想い出Ⅱ吉井さんと演劇の思い出／市川猿之助〔14～16頁〕■日本文学百景4■在りし日の吉井勇・一力の暖簾／野田宇太郎■座談会Ⅱ祇園の文学／中沢弘光、金子竹次郎、杵屋田鶴、野田宇太郎〔18～32頁〕■清水音羽の滝〔下絵〕／中沢弘光〔33頁〕■バリのKへ／伊藤廉〔34～36頁〕■旅吟集〔俳句〕／水原秋桜子〔37頁〕■南島〔セイロン断片〕／阿部知二〔38～43頁〕■妻籠日記2／菊池重三郎〔44～52頁〕■文学散歩Ⅱ文学碑は美しく／桐後亭〔53頁〕■新フランス文学紀行3■モンモランシーⅡ／村松嘉津〔54～62頁〕■文学散

歩友の会通信(63～69頁) ■僕よ 何処に／詩Ⅱ丸山薫(64～65頁) ■文学者の旅5 牧水の旅／長谷川銀作(70～73頁) ■本の紹介(74頁) ■蒲原有明先生の写真／森豊(75頁) ■岩盤アクロポリス／阿部徹雄 ■追分の石仏／堀多恵子、横田正知 ■南郷四季3 早春／築添明生(78～83頁) ■萩原朔太郎の新発見資料／市川為雄(83頁) ■一代男の詩／森銑三(84～87頁) ■友の会彙報(89頁) ■「文学散歩友の会」規約(89頁) ■城ヶ島便り／上林暁(90～99頁) ■筆者紹介(100頁) ■編集後記／野田宇太郎(100頁)

『文学散歩』第五号 一九六一年五月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／森芳雄

【目次】 ■リンカーン臨終の家／高橋邦太郎(口絵) ■古典をどうするか(文学散歩)(1頁) ■平田禿木の南英／福原麟太郎(2～7頁) ■若き日の和辻哲郎／後藤末雄(8～12頁) ■銀座の今昔／絵と文Ⅱ鈴木信太郎(14～18頁) ■妻籠日記3／菊池重三郎(19～27頁) ■ザッキンの破壊された都市／写真と文Ⅱ阿部徹雄(28頁) ■ウシユマルの遺跡／写真と文Ⅱ吉田穂高(29頁) ■牛乳とり／日夏耿之介(30～33頁) ■郵便局界限(詩)／村野四郎(34～35頁) ■新フランス文学紀行4 ⅡモンモランシーⅢ／村松嘉津(36～

44頁) ■本の紹介(45頁) ■『長流』十巻覚え書／島本久恵(46～49頁) ■南郷四季4／築添明生(50～55頁) ■手／写真と文Ⅱ徳田一穂 ■日本文学百景5 燈台にて／写真と文Ⅱ野田宇太郎(57頁) ■文学散歩友の会通信(58～63頁) ■夭折の天才的作家山口寒水／市川為雄(64～67頁) ■東京文学散歩山の手篇4 Ⅱ本郷・小石川／野田宇太郎(68～79頁) ■秘密(小説)／小田嶽夫(80～87頁) ■「文学散歩友の会」規約(88頁) ■筆者紹介(89頁) ■編集後記／野田宇太郎(89頁)

『文学散歩』第六号 一九六一年六月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／石井柏亭

【目次】 ■修学院離宮／谷口吉郎(口絵) ■三人の画家／野田宇太郎(1頁) ■特集三人の画家Ⅱ織田一磨君のこと／中沢弘光(2～4頁) ■特集三人の画家Ⅱ木村莊八の事／中川一政(5～8頁) ■特集三人の画家Ⅱ石井柏亭先生／鈴木長三郎(8～9頁) ■墨水両岸(遺稿)／石井柏亭(10～11頁) ■父の思い出／石井潤(12～15頁) ■鶴沼の頃／岸田麗子(16～19頁) ■岸田劉生と椿貞雄／東珠樹(20～26頁) ■弥十郎日記／大島正満(27～33頁) ■ローマの吊燈／吉田穂高(34頁) ■マルロオの家／小松清・阿部徹雄(35～45

頁) ■ブラジル文学散歩／湯浅克衛(46～53頁) ■新フランス文学紀行5ⅡエルムノンヴィルⅠ／村松嘉津(54～61頁) ■妻籠日記4／菊池重三郎、写真Ⅱ沢修二(62～69頁) ■日本文学百景6Ⅱ大石誠之助の墓／野田宇太郎(70頁) ■草津湯もみ唄／中沢晃三・横田正知(71～77頁) ■文学散歩友の会通信(78～83頁) ■城にて／神保光太郎(80～81頁) ■本の紹介(84頁) ■福井行／山口誓子(85頁) ■入梅のころ／萩原葉子(86～87頁) ■散歩に出る／堀木克三(88～89頁) ■唐津／寺田竹雄(90～92頁) ■「文学散歩友の会」規約(92頁) ■稲舟の柳／田中宇一郎(93～95頁) ■隠岐紀行／相良義重(95～97頁) ■南郷四季5／築添明生(98～103頁) ■風景／斎田昭吉(103頁) ■遠い記憶(すみか)／網田菊(104～110頁) ■筆者紹介(111頁) ■編集後記／野田宇太郎(111頁)

『文学散歩』第七号 一九六一年七月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／岩橋英遠

【目次】 ■バリ・ノートルダム寺院の屋根／吉田穂高(口絵) ■北海道の文化開拓／桐後亭(1頁) ■積丹半島／吉田一穂(2～3頁) ■さいはての国／長田幹彦(4～7頁) ■札幌／森田たま(8～11頁) ■北大の庭／阿部徹雄(12頁) ■余市の

野田宇太郎と雑誌『文学散歩』総目次(岡野)

住友鉦山を訪れた幸田文さん／写真Ⅱ野田宇太郎(12～13頁に別刷挿入) ■さびしい記憶／幸田文(13～17頁) ■北海道の旅／鍋井克之(18～21頁) ■文学散歩友の会規約(21頁) ■ふるさとクンナイ／和田芳恵(22～26頁) ■文学と地理／石田龍次郎(27～31頁) ■北海道と兆民／嘉治隆一(32～35頁) ■有島武郎と北海道／坂本浩(36～41頁) ■原始のいぶきの中で／泡鳴作「断橋」に沿うて／長尾宏也(42～47頁) ■最果の呟き／小林多喜二と北海道／進藤純孝(48～54頁) ■ケプロン構想／町村金五(55～56頁) ■絵葉書／佐藤欣次(57～58頁) ■北海道の歌／熊谷太三郎(58～60頁) ■さいはての文学碑／更科源蔵(60～65頁) ■北海道の詩／佐藤喜一(66～67頁) ■北海道短歌紀行／相良義重編(68～73頁) ■対談 函館と啄木／宮崎郁雨・野田宇太郎(74～81頁) ■金成まつ刀自を語る／金田一京助(82～85頁) ■アイヌの舞踊／本多安次(86～89頁) ■成石修の『東徼私筆』／大野良子(90～95頁) ■友の会彙報(95頁) ■キャプテン・ブラキストン／内田清之助(96～99頁) ■日本文学百景7Ⅱ新島襄の日本脱出／野田宇太郎(100頁) ■蚤の市／高橋邦太郎(101頁) ■文学散歩友の会通信(103～106頁) ■藤村の「春」に関する漱石書簡／野田宇太郎(104～105頁)

■南郷四季6／築添明生（107～111頁）■妻籠日記5／菊池重三郎、写真Ⅱ沢修二（112～120頁）■絵のある眺め／菊村到（122～128頁）■筆者紹介（129頁）■編集後記／野田宇太郎（129頁）

『文学散歩』第八号 一九六一年八月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／荻太郎

【目次】■夕陽に沈むタージ・マハル／千地琇也（口絵）■消えた広重の墓／野田宇太郎（1頁）■東ヨーロッパの画家たち／宮川寅雄（2～9頁）■文学者の旅6Ⅱ島村抱月の旧居―オックスフォードと金城村／川副国基（10～15頁）■エセドラの噴水／阿部徹雄（16頁）■火の床／横田正知（17頁）■詩人の故郷―イスバニア文学紀行／興津憲作（18～26頁）■新フランス文学紀行6Ⅱエルムノンヴィル2／村松嘉津（27～35頁）■杭州西湖と西湖物語／小田嶽夫（36～44頁）■栃木県文学地図／栃木県文学散歩の会編（45頁）■失った季節／阪本越郎（46～47頁）■吉井勇氏の事ども／小杉放庵（48～51頁）■月夜田の吉井勇―孝子夫人のことども／西村大成（52～54頁）■近代奇人伝2Ⅱ鈴木鼓村翁のこと／雨田光平（56～59頁）■妻籠日記6／菊池重三郎、写真Ⅱ沢修二（60～68頁）■「文学散歩友の会」規約

（68頁）■軽の里／高田良蔵（68～69頁の間に別刷挿入）■水島（万葉集歌枕）／堀田勇（68～69頁の間に別刷挿入）■本の紹介（69頁）■南郷四季7／築添明生（70～74頁）■そうこうフォトコンテスト入選作品（74～75頁の間に別刷挿入）■文学散歩友の会通信（75～82頁）■石の花／川口敏男（76～77頁）■東京文学散歩山の手篇5Ⅱ本郷・小石川／野田宇太郎（84～95頁）■指環／森茉莉（96～102頁）■フランス・ドンの死―ある人間心理の研究／作Ⅱアネスト・ダウスン、訳Ⅱ関川左木夫（103～112頁）■筆者紹介（113頁）■編集後記／野田宇太郎（113頁）

『文学散歩』第九号 一九六一年九月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／橋本明治

【目次】■ボンペイの街路／坂崎乙郎（口絵）■弥次馬と文学者／桐後亭（1頁）■二人の娘―ボンペイの一夜／坂崎乙郎（2～7頁）■ブリュッセル万国博覧会／高階秀爾（8～11頁）■巴里祭／村松嘉津（12～15頁）■道成寺／徳田一穂（16頁）■日本文学百景8Ⅱ柳川の昼嵐／野田宇太郎（17頁）■高麗郷／野口赫宙（18～27頁）■野川の四季／富永次郎（28～32頁）■柳川にて／東山魁夷（34～36頁）■文学散歩友の会通信（37～44頁）■集錦写真／郎静山（45

〔47頁〕■郎静山氏／金丸重嶺〔47頁〕■演歌昔と今／添田知道〔48～51頁〕■妻籠日記7／菊池重三郎、写真＝沢修二〔52～60頁〕■桃／橋本明治〔60頁〕■友の会彙報〔61頁〕■本の紹介〔61頁〕■南郷四季8＝蟬しぐれ／築添明生〔62～65頁〕■「文学散歩友の会」規約〔65頁〕■石川啄木未発表歌稿ノート（一）——「ヒマナ時」以前／石川正雄〔66～72頁〕■東京文学散歩山の手篇6＝本郷・小石川／野田宇太郎〔74～84頁〕■吹雪の宿／小堺昭三〔85～92頁〕■筆者紹介〔93頁〕■編集後記／野田宇太郎〔93頁〕

『文学散歩』第十号 一九六一年十月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵及び扉絵／中西利雄

【目次】■十和田湖／生出正〔口絵〕■特集十和田湖＝十和田湖の一夜／佐佐木信綱〔2～3頁〕■特集十和田湖＝桂月と十和田湖／大町文衛〔4～7頁〕■特集十和田湖＝十和田湖／草野心平〔8～13頁〕■湖畔の像／文＝谷口吉郎■湖畔の像／写真＝平山忠治〔14～15頁の間に別刷挿入〕■子ノ口付近湖畔の結氷／生出正〔14～15頁の間に別刷挿入〕■「文学散歩」についての御挨拶／野田宇太郎〔15頁〕■桃／西脇順三郎〔16～17頁〕■歴史文学管見／佐藤春夫〔18～23頁〕■謹告／雪華社〔23頁〕■殺人と文鳥／石川達三〔24

〔25頁〕■明治年代の大久保／曾宮一〔26～29頁〕■八月の日記より／堀多恵子〔30～32頁〕■大地／新川和江〔33頁〕■青野季吉と「藤村記念館」／堀川潭〔34～37頁〕■証券文士とは何者か／十返肇〔38～40頁〕■本の紹介〔41頁〕■日本文学百景9＝木曾路のはて／野田宇太郎■パルセローナ美術館の前庭で／写真＝阿部徹雄〔42～43頁の間に別刷挿入〕■パルセローナ／小松清〔43～48頁〕■独自の紀行／浅井真男〔49～57頁〕■ヘミングウェイ・ハント／龍口直太郎〔58～62頁〕■ロンドンの噴水のほとり／坂崎乙郎〔63～69頁〕■ヴァレリーの生地セートを訪ねる／根津憲三〔70～76頁〕■墓とニューヨーク／関野準一郎〔78～80頁〕■高村光太郎の「彫塑雑誌」／北川太一〔81～85頁〕■病舎にて／山本太郎〔86～87頁〕■妻籠日記8／菊池重三郎〔88～95頁〕■洛陽の酒徒／矢倉年〔96～100頁〕■文学散歩友の会通信〔101～105頁〕■南郷四季9／築添明生〔106～112頁〕■統弥十郎日記／大島正満〔113～119頁〕■石川啄木未発表歌稿ノート（二）／石川正雄〔120～125頁〕■友の会彙報〔125頁〕■東京文学散歩山の手篇7＝本郷・小石川／野田宇太郎〔126～138頁〕■筆者紹介〔139頁〕■編集後記／野田宇太郎〔139頁〕

『文学散歩』第十一号 一九六一年十一月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／木村莊八

【目次】■挨拶／野田宇太郎（1頁）■ビエールの谷間と『ランピオの悲しみ』／村松嘉津（2～7頁）■本の紹介（7頁）■文学散歩友の会規約（8頁）■山河抄Ⅱ與謝野晶子さんの声／林原茅蓬（9頁）■山河抄Ⅱ大阪秋信／矢倉年（9～10頁）■山河抄Ⅱ斎藤弔花翁記念歌碑／矢野隆夫（10～11頁）■山河抄Ⅱ蘆花受洗の教会堂／武藤光磨（11頁）■山河抄Ⅱ佐渡の吉井歌碑／山本修之助（12頁）■山河抄Ⅱ元奎網の生家と墓／榎本了（13～14頁）■山河抄Ⅱ独歩文学の紀州の墓／長門はる子（14～15頁）■山河抄Ⅱ火野葦平の墓のこと／小田雅彦（15～16頁）■本の紹介（16頁）■鶯の耳／松崎好（17頁）■「バスによる文学散歩」と共に／榊信子（18～19頁）■日本文学百景10Ⅱ暮坂峠／野田宇太郎（20頁）■音の出る本と文学―録音版「隅田川」に寄せて／蘆原貢（21頁）■文学散歩友の会全国通信（22～29頁）■東京文学散歩山の手篇8Ⅱ本郷・小石川／野田宇太郎（30～33頁）■彙報（34頁）■編集後記／野田宇太郎（35頁）

『文学散歩』第十二号 一九六二年一月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙絵／織田一磨

【目次】■詩―この透明の杖／野田宇太郎（1頁）■谷川憲子詩抄（2～8頁）■透明の杖詩集Ⅱ樹のように／渡辺修三（9～10頁）■文化彙報（9～15頁）■透明の杖詩集Ⅱ栖・平・

慣・雨／井上多喜三郎（10～12頁）■透明の杖詩集Ⅱ吾が師朔太郎／田中克己（12～13頁）■本の紹介（12～15頁）■壺／斎田昭吉（13～14頁）■透明の杖詩集Ⅱ仙掌村／小西秋雄（14頁）■透明の杖詩集Ⅱ冬夜所感／古川清彦（15頁）■日本文学百景11Ⅱ沙羅の木の庭／文と写真Ⅱ野田宇太郎（16頁）■文学散歩友の会通信（17～28頁）■深巷小吟／橘馨（29頁）■北九州友の会消息（29頁）■旅日記抄／野田宇太郎（30頁）■鲁迅故居その他／小田嶽夫（31～33頁）■東京友の会消息（33頁）■山河抄Ⅱ夕陽ヶ丘の詩碑／内海信之（34～35頁）■山河抄Ⅱ北原白秋の碑／劉寒吉（35～36頁）■山河抄Ⅱ与謝野寛と北原白秋／古川清彦（36～37頁）■山河抄Ⅱ孔子様の尊像／鍛治忠一（37～38頁）■東京文学散歩・山の手篇9Ⅱ本郷・小石川／野田宇太郎（39～44頁）■編集後記／野田宇太郎（45頁）■友の会事務局から（45頁）■文学散歩友の会規約（46頁）

『文学散歩』第十三号 一九六二年四月 表紙意匠／谷口吉郎 【目次】■文学尋ね人（2頁）■渡川畔の流刑地／上林暁（3

〔6頁〕■秘められた鵬外書簡と「遺言」／野田宇太郎（7～10頁）■日本文学百景12＝雪の翁／野田宇太郎（11頁）■山河抄＝雪／小西秋雄（12頁）■山河抄＝日光の芭蕉句碑／小川和佑（12～13頁）■山河抄＝「田舎教師」の町・行田／榎本了（13～15頁）■山河抄＝「残雪」の宿／小林一郎（15～16頁）■山河抄＝鲁迅／小林図（16頁）■鹿持雅澄の墓／福留泰子（16～17頁）■與謝野寛の巴里通信／古川清彦（17～18頁）■「島の秋」の碑／相良義重（18～19頁）■龍ヶ岡俳人墓地／梅原黄鶴子（20～21頁）■雪の島山（長塚節の旅）／松田修（22～25頁）■文学散歩友の会通信（26～32頁）■十七年前／築添明生（33～35頁）■事務局から（35頁）■月ヶ瀬の宿帳／野田宇太郎（36～40頁）■プロヴァンスのコント＝キュキュニアン of 醫者／作＝ルーマニーユ、訳＝村松嘉津（41～46頁）■編輯室（47頁）

『文学散歩』第十四号「特集 回想の岡田八千代」 一九六二年六月 表紙絵／辻永 表紙意匠／谷口吉郎
 【目次】■閨秀作家の生涯／野田宇太郎（1～2頁）■閨秀作家としての岡田八千代／板垣直子（3～7頁）■岡田さんの仕事／戸板康二（8～10頁）■八千代さんの追憶と手袋／森於

菟（11～13頁）■小山内芹影女史と私／正宗白鳥（14～15頁）■岡田八千代「青轡」所載作品目録／平塚らいてう（15～16頁）■「青轡」の頃／小林哥津（16～17頁）■岡田八千代さんのこと／湯浅芳子（17～19頁）■思ひ出されること／里見淳（19～）■岡田八千代女史のこと／圓地文子（19～21頁）■岡田八千代さん／木村毅（22～23頁）■記憶にのこつてゐるだけを／久保田万太郎（24～25頁）■誓つたこと／辻永（26頁）■芹影女史／長谷川春子（27～29頁）■八千代女史と九段中坂／岩田藤七（29～34頁）■恩師夫人／有馬三斗枝（34～36頁）■アトリエの岡田夫人／森田元子（36～38頁）■「芽生座」のこと／服部清（39～43頁）■未明座のころ／阿木翁助（43～45頁）■支那絹の前（原色）／画＝岡田三郎助■晩年の面影（単色）／画＝辻永■回想寸信＝上海の記念写真／戸川エマ（46頁）■回想寸信＝やつちゃん／川田順（46頁）■回想寸信＝ほのかに／網野菊（46～47頁）■回想寸信＝女流劇運動家／高橋邦太郎（47頁）■岡田画伯夫人／嘉治隆一（47頁）■回想寸信＝虎の尾／保高德藏（47頁）■回想寸信＝才女の悪口／伊藤整（47頁）■思ひ出づるまに／大場白水郎（48～51頁）■岡田八千代先生／大岡龍男（51～53頁）■わらび餅／中村庄八（53～55頁）■岡田八千代さんの思い出／東山千栄

子〔56～57頁〕■美貌のひと／柳永二郎〔57～61頁〕
 ■追悼句集／稲垣きくの、鈴木真砂女、長谷川湖代、可児松栄、
 金田隼子、足立文女〔58～60頁〕■芽生座と岡田のおくさ
 ん／花柳章太郎〔61～62頁〕■岡田八千代さんを偲びて／
 尾上梅幸〔62～63頁〕■小紋の似合った芹影女史／大江良
 太郎〔64～69頁〕■岡田先生／辻山春子〔69～72頁〕
 ■晩年の岡田八千代／秋元松代〔72～73頁〕■女作家とア
 カンサス／田井洋子〔74～76頁〕■病床記／杉浦章〔77
 ～78頁〕■事務局より〔78頁〕■岡田八千代年譜〔79～
 85頁〕■文学散歩友の会通信〔86～90頁〕■文学散歩友
 の会規約〔91頁〕■プロヴァンスのコント2 馬車挽き／作
 〓ミストラル、訳 村松嘉津〔92～97頁〕■編輯室〔98
 頁〕

『文学散歩』第十五号「特集 鷗外生誕百年の記念」 一九六二
 年十月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙原色写真／鷗外著「雁」表紙
 【目次】■沙羅の木／森鷗外〔1頁〕■偉大なる指導者／矢野
 峰人〔2～3頁〕■想い出の森鷗外／長谷川如是閑〔3～4頁〕
 ■鷗外先生の著述から受けた感化／窪田空穂〔4～5頁〕■鷗
 外先生について／平塚らいてう〔6～7頁〕■鷗外とクラウゼ
 ネット／木村毅〔7～8頁〕■鷗外と東洋的精神／岡崎義恵〔8

～9頁〕■逸文一篇／稲垣達郎〔9～10頁〕■「諸国物語」
 と「洪江抽斎」／中河與一〔11～12頁〕■こぼれ話二三／
 嘉治隆一〔12～13頁〕■鷗外訳「ファウスト」のこと／相
 良守峯〔13～14頁〕■鷗外とユーモアと皮肉／勝本正晃
 〔14～16頁〕■作中の画家／曾宮一念〔16～17頁〕
 ■無縁坂のお玉だったころ／橋本多佳子〔17～19頁〕■鷗
 外博士についての記憶／颯田琴次〔19～21頁〕■古い日記
 から／洪沢秀雄〔21～22頁〕■鷗外略伝〔23～33頁〕
 ■日本文学百景13 白毫寺の鷗外／野田宇太郎〔34頁〕
 ■鷗外記念館（写真）〔別刷で34頁と35頁の間に別刷挿入〕
 ■鷗外記念図書館設計図／谷口吉郎〔35頁〕■鷗外記念事業
 十七年の記録／野田宇太郎〔36～51頁〕■記念図書館建設
 離記／井形卓三〔52～54頁〕■小倉の鷗外碑／劉寒吉〔55
 ～58頁〕■追憶（一つの記録）／宮芳平〔59～66頁〕
 ■図書館の森先生／森永武治〔66～68頁〕■鷗外印譜の一
 部〔別刷で68～69頁の間に別刷挿入〕■観潮楼玄関番列伝
 ／森於菟〔69～74頁〕■「パッパ」と／森茉莉〔74～
 79頁〕■父と宗教／小堀杏奴〔79～82頁〕■観潮楼の離
 れ／森類〔82～85頁〕■三度鷗外像を彫刻して／武石弘三
 郎〔86～94頁〕■鷗外の像／高田博厚〔94～96頁〕
 ■文学散歩友の会通信〔97～98頁〕■鷗外と魯迅／小田嶽

夫〔99〕105頁〕■鷗外とわが新劇史／戸板康二〔106〕109頁〕■森鷗外と横浜市歌／鈴木三雄〔110〕112頁〕■事務局より〔112頁〕■森鷗外と私の父／江口渙〔113〕119頁〕■机上言〔120頁〕

『文学散歩』第十六号「特集 続・鷗外生誕百年の記念」一九六二年十二月 表紙意匠／谷口吉郎 表紙／鷗外著「雁」赤表紙

【目次】■交求堂主人の話／佐藤春夫〔1〕2頁〕■大学の自由／成瀬正勝〔2〕4頁〕■鷗外のフランス語／畠中敏郎〔4〕5頁〕■「即興詩人」の思ひ出／徳川義親〔5〕6頁〕■小説「雁」／内田清之助〔6〕7頁〕■わが鷗外文学観／藤森成吉〔7〕8頁〕■津和野での鷗外二十五年忌／石中象治〔8〕9頁〕■鷗外と伝統／瀬沼茂樹〔9〕11頁〕■日本文学百景14／津和野の鯉／野田宇太郎〔12頁〕■観潮楼玄閣番列伝2／森於菟〔13〕15頁〕■森林太郎と太田正雄／沢柳大五郎〔16〕19頁〕■柳田国男と鷗外／野田宇太郎〔20〕25頁〕■露国戦役年表／観潮楼主人〔26〕28頁〕■解説／今村速男〔28〕29頁〕■鷗外のペンネーム〔29頁〕■賀古鶴所と鷗外／松原純一〔30〕37頁〕■森鷗外と山縣含雪／古川清彦〔37〕40頁〕■常磐会臆説／川田茂一〔41

〕43頁〕■森家祖先の墓／野田宇太郎〔44〕46頁〕■文学散歩友の会通信〔47〕52頁〕■茶色の目のこと／田中良一〔53〕58頁〕■山河抄Ⅱ泣菫の公孫樹／服部忠志〔59〕61頁〕■山河抄Ⅱ越生文学散歩／榎本了〔61〕63頁〕■山河抄Ⅱ段降り／林原茅蓬〔63〕65頁〕■山河抄Ⅱ若松賤子の碑／鈴木三雄〔65〕67頁〕■プロヴァンスのコント3Ⅱ劍草／作Ⅱフェリックス・グラ、訳Ⅱ村松嘉津〔68〕72頁〕■文学散歩友の会規約〔73頁〕■文学散歩バックナンバー目録〔74〕75頁〕■机上言／野田宇太郎〔76頁〕

『文学散歩』第十七号「特集 永井荷風記念号」一九六三年四月 表紙絵／木村莊八

【目次】■孤影／野田宇太郎〔1〕2頁〕■永井荷風回想記／森於菟〔3〕9頁〕■『珊瑚集』と未完成の美／矢野峰人〔10〕13頁〕■永井荷風のこと／長田幹彦〔14〕15頁〕■日本文学百景15Ⅱ豎川の牡丹／野田宇太郎〔16頁〕■西林寺の荷風／写真と文Ⅱ野田宇太郎〔16頁と17頁の間に別刷挿入〕■回想の永井壮吉Ⅱ『あめりか物語』の出たころ／木村毅〔17〕19頁〕■回想の永井壮吉Ⅱ荷風先生とフランス語／高橋邦太郎〔19〕20頁〕■回想の永井壮吉Ⅱ荷風を探す／澁澤秀雄〔20〕23頁〕■回想の永井壮吉Ⅱ荷風とパリ／河盛

好蔵〔23〕24頁〕■回想の永井壮吉■荷風と銀座・浅草／吉田精一〔25〕26頁〕■回想の永井壮吉■断腸亭日乗と疎開日記／瀬沼茂樹〔26〕28頁〕■回想の永井壮吉■秘本一卷／野口富士男〔28〕29頁〕■回想の永井壮吉■一つの目的／小堀杏奴〔29〕31頁〕■回想の永井壮吉■荷風先生に惜しい忘れ物／佐藤観次郎〔31〕33頁〕■荷風と柳北／鹽田良平〔34〕36頁〕■荷風先生追想掌篇／大島隆一〔37〕39頁〕■荷風と演劇／安藤鶴夫〔40〕42頁〕■荷風山人の人間と私家版淫東綺譚／杉野橘太郎〔43〕46頁〕■荷風伝の一節／秋庭太郎〔47〕50頁〕■古本市場で掘り出した「ふらんす物語」初版／山田朝一〔51〕53頁〕■永井荷風先生と浄閑寺／岩野真雄〔54〕57頁〕■永井荷風追慕之碑設計図／谷口吉郎〔57頁〕■永井荷風／板垣直子〔58〕62頁〕■荷風・八重次の逢いびき／田中純〔63〕65頁〕■「神代種亮小伝」について／野田宇太郎〔66頁〕■神代種亮小伝／後藤正兵衛〔67〕84頁〕■文学散歩友の会通信〔85〕88頁〕■山河抄■長崎の斎藤茂吉故家／田栗奎作〔89〕90頁〕■山河抄■武州の小川町／榎本了〔90〕91頁〕■山河抄■大平越え／小林図〔91〕92頁〕■山河抄■信濃歌稿／林原茅蓬〔92〕93頁〕■山河抄■信濃路／小西秋雄〔93頁〕■生田春月の碑／廣野晴彦〔94〕95頁〕

■プロヴァンスのコント4■夜話と子供／作■フェリックス・グラ、訳■村松嘉津〔96〕99頁〕■机上言〔100頁〕

『文学散歩』第十八号「特集 それでも隅田川はながれてゐる」一九六三年七月

【目次】■木下玄太郎に捧げる隅田川幕調／野田宇太郎（口絵）■今昔隅田川／佐佐木信綱〔1〕3頁〕■隅田川のこの上臭くならぬことを願ふ／安倍能成〔3〕5頁〕■隅田川を思ひ出す／津田青楓〔6〕7頁〕■隅田川への郷愁／久松潜一〔7〕9頁〕■墨堤／西條八十〔9頁〕■はるかなる築地河岸／山田耕筈〔9〕11頁〕■わが隅田川／福原麟太郎〔11〕12頁〕■汐入りの池／河竹繁俊〔12〕13頁〕■釣舟の記憶／水原秋桜子〔14頁〕■隅田川とオリンピック／桐後亭〔15〕16頁〕■思ひ出の隅田川／長谷川如是閑〔17〕19頁〕■大川端の思ひ出二、三／石田幹之助〔19〕23頁〕■川にそふた町で／小林哥津〔23〕27頁〕■雨の大川端／菱山修三〔28〕40頁〕■それでも隅田は流れてゐる／野田宇太郎〔28〕40頁〕■セーヌと隅田／村松嘉津〔41〕43頁〕■日本文学百景16■隅田川挽歌／写真と文■野田宇太郎〔44頁〕■夢香洲／高木健夫〔45〕47頁〕■用という字／幸田文〔48〕49頁〕■建築と水／村松貞次郎〔50〕

53頁】■惚れて通う橋／秋山安三郎（54～55頁）■春の花見と夏の花火／神近市子（55～57頁）■おもい出すことあれこれ／佐多稲子（57～59頁）■隅田川雑記／沢沢秀雄（59～61頁）■水のにほひ／青柳瑞穂（61～62頁）■屋形船／徳川夢聲（63～64頁）■隅田川の思い出／北川桃雄（64～67頁）■隅田川／堀口大（65頁）■悲しき隅田川／伊藤桂一（67～68頁）■隅田川叱り帳／宮尾しげを（68～70頁）■隅田川回想／會宮一念（71～73頁）■ぼくの隅田川／高橋邦太郎（73～76頁）■隅田川いまむかし／金子光晴（76～78頁）■昔のにおい／三遊亭金馬（79～80頁）■父狭衣の思い出／栗島すみ子（81～85頁）■文学散歩郷土史通信（86～94頁）■プロヴァンスのコント5ラインゲンベルティ嬢／作ルーマニユ、訳村松嘉津（95～100頁）■本の紹介／野田宇太郎（101頁）■文学散歩友の会規約（昭和三十八年八月改正）（102頁）■本号編輯について／野田宇太郎（103頁）

『文学散歩』第十九号 一九六三年十一月 表紙写真／野田宇太郎

【目次】■観光と文学／野田宇太郎（1頁）■日本文学百景 17＝千駄木町最後の日／野田宇太郎（2頁）■中原四十二描・

野田宇太郎と雑誌『文学散歩』総目次（岡野）

広瀬川風景（2～3頁目の間に別刷挿入）■特集川の声＝耳川流域／高森文夫（3～5頁）■特集川の声＝祝子川／渡辺修三（5～6頁）■特集川の声＝那珂川の水は濁った／原田種夫（6～10頁）■特集川の声＝川のある町篠山／朽木史郎（10～12頁）■特集川の声＝揖斐川周辺・桑名／平岡潤（12～17頁）■特集川の声＝九頭道川／則武三雄（17～19頁）■特集川の声＝二筋の川／宮川靖（19～22頁）■歌人尾山篤二郎／岡野他家夫（23～31頁）■ライン・ネッカー今昔／松本徳明（31頁）■山河抄＝宗祇出生考／岩根冬青（32～33頁）■山河抄＝韓来文化の余栄／鬼宝集斯のことども／築添正二（33～34頁）■山河抄＝近詠集／林原茅蓬（34頁）■山河抄＝武州鉢形城／榎本了（35～36頁）■山河抄＝むさうあんの碑／佐々木健治（36～37頁）■山河抄＝石にさす影＝高麗郷の譜／小林図（37頁）■山河抄＝浄閑寺／小西秋雄（37～38頁）■山河抄＝ヴェルサイユ通信／村松嘉津（38～39頁）■本の紹介（39頁）■プロヴァンスのコント6＝ライアノ城主と挨拶／作レオン・ド・ベルリュック・ペリュシ、訳村松嘉津（40～43頁）■知られざる横浜文学遺跡／鈴木二三雄（44～47頁）■本の紹介（47頁）■文学散歩郷土史通信（48～49頁）■東海文学散歩（知多半島）＝師崎／野田宇太郎（50～62頁）■文学散歩特輯合

本頒布について〔63頁〕 ■編輯後記／野田宇太郎〔64頁〕

『文学散歩』第二十号 一九六四年二月 表紙写真／野田宇太郎
【目次】 ■プロヴァンスのコント7＝サン・ジャック庵の隠者
／作＝ルー・マニユ、訳＝村松嘉津〔1～6頁〕 ■鷗外の逸文
／森於菟〔7～23頁〕 ■日本文学百景18＝雪の飛驒にて／
野田宇太郎〔24頁〕 ■演劇神髓材料（新発表資料）／森鷗外
■山河抄＝「碧雲集」の朝鮮／則武三雄〔25～26頁〕 ■山
河抄＝桑名の芳水詩碑／平岡潤〔26～28頁〕 ■山河抄＝西
行の高富浦／下垣内和人〔28～29頁〕 ■山河抄＝「奥の細
道」の出雲崎／山岸正男〔29頁〕 ■山河抄＝千駄木「猫の家」
来歴／野田宇太郎〔29～31頁〕 ■いきのしまたび＝壱岐の
文学遺跡／原田種夫〔32～34頁〕 ■いきのしまたび＝釈迢
空の旅（雪の島山）／松田修〔34～37頁〕 ■韓茂淑さん＝
韓茂淑さんに／野田宇太郎〔38～40頁〕 ■韓茂淑さん＝韓
民淑夫人によせて／藤田佳世〔40～41頁〕 ■韓茂淑さん＝
韓茂淑女史との箱根路の旅／小林紫香〔41頁〕 ■韓茂淑さん
＝韓茂淑夫人におくる／林原茅蓬〔42頁〕 ■韓茂淑さん＝紫
の星／小西秋雄〔42頁〕 ■文学散歩郷土史通信〔43～44
頁〕 ■伊良湖岬まで（東海文学散歩・渥美半島の一部）／野田
宇太郎〔45～68頁〕

『文学散歩』第二十一号 一九六四年六月

【目次】 ■水へつづく階段／野田宇太郎（口絵） ■風流の人鈴
木鼓村＝鼓村翁の思い出／田邊尚雄〔1～4頁〕 ■風流の人鈴
木鼓村＝鈴木鼓村先生奇行追想記／森垣二郎〔5～9頁〕 ■近
作詩抄／野田宇太郎〔10～14頁〕 ■西片町拾番地／嘉治隆
一〔15～17頁〕 ■華山の尺順牘など／岡野他家夫〔17～
21頁〕 ■日本文学百景19＝日本橋の空／野田宇太郎〔22
頁〕 ■渥美半島・月ヶ瀬の旅／吉田節三、北原隆太郎、田島鶴
治、龍澤速水、久松しげ、林原茅蓬、妹尾敏子、藤田佳世、坂
本伶子〔23～29頁〕 ■山河抄＝おまかげ抄／桐後亭〔30
～36頁〕 ■山河抄＝良寛と貞心尼／山岸正男〔36頁〕 ■プ
ロヴァンスコント8＝牝牛のジャン／作＝ミストラル、訳＝村
松嘉津〔37～42頁〕 ■文学散歩史郷土通信〔43～46頁〕
■昭和三十九年四月現在・維持会員〔46頁〕 ■東海文学散歩・
山道篇＝「日本ライン」／野田宇太郎〔47～62頁〕 ■文学
散歩友の会規約（昭和三十九年四月改正）〔63頁〕

『文学散歩』第二十二号 一九六四年九月
【目次】 ■編輯記／野田宇太郎（口絵） ■石棺その他／渡邊修
三〔1～3頁〕 ■詩三篇／藤森成吉〔3～5頁〕 ■明治二十五
年東京現在著作家案内／編集部〔6～14頁〕 ■素描について

〔遺稿〕／奥村博史〔15頁〕■奥村博史の裸婦素描について／平塚らいてう〔16～17頁〕■日本文学百景20＝鹿浦のあんじゅ堂／野田宇太郎〔18頁〕■山河抄＝古都博多＝歴史はこのように踏みにじられていく／原田種夫〔19頁〕■山河抄＝尾崎紅葉と佐渡／山本修之助〔20～23頁〕■山河抄＝中島敦と横浜／鈴木二三雄〔23～25頁〕■山河抄＝芭蕉白魚句碑の再建／平岡潤五〔25～28頁〕■事務局より〔28頁〕■金子竹次郎翁の追想＝河東節 白鷺の唄／磯田又一郎〔29～31頁〕■金子竹次郎翁の追想＝金子八十一翁／北川梓〔31～33頁〕■金子竹次郎翁の追想＝萬屋の金子さん／野田宇太郎〔33～36頁〕■三條さんしのび草／杵屋君繁、近藤雨齋、有本村尾、高折隆一、大川起恵子〔37～40頁〕■雛祭り／金子竹次郎〔38頁〕■文学散歩郷土史通信〔41～47頁〕■信心／小林哥津〔48～49頁〕■執筆者住所〔49頁〕■佐渡日記／野田宇太郎〔50～60頁〕■編輯室より〔60頁〕

『文学散歩』第二十三号「特集 今日武蔵野」 一九六五年一月 表紙絵／満谷国四郎

【目次】追いつめられて行く武蔵野／向井潤吉〔口絵〕■十人会のこと／石田幹之助〔1～5頁〕■わが武蔵野／福原麟太郎

〔5～7頁〕■武蔵野今昔記／津田青楓〔7～10頁〕■武蔵野小感／安倍能成〔10～11頁〕■バルビゾン今昔／村松嘉津〔12～16頁〕■バルビゾンの宿／岩村透〔16頁〕■武蔵野の思い出／大木惇夫〔17～19頁〕■蘆花の家のことなど／伊藤整〔20～23頁〕■練馬大根／石川達三〔23～24頁〕■井の頭公園で／小田嶽夫〔24～26頁〕■三鷹・わが町／今官一〔26～30頁〕■武蔵野の風／野田宇太郎〔30頁〕■武蔵野に残る系図／蔵原伸二郎〔31～34頁〕■獨歩と蘆花／野田宇太郎〔35～40頁〕■武蔵野／國木田獨歩〔41～57頁〕■日本文学百景21＝獨歩の戀の林／野田宇太郎〔58頁〕■深大寺異変〔58～59頁の間に別刷挿入〕■獨歩の日記／桐後亭〔59～61頁〕■華やかな晩秋／網野菊〔62～63頁〕■武蔵野変貌記／澁澤秀雄〔63～67頁〕■武蔵野の秋／宮田重雄〔67～68頁〕■「むさし」語源考〔69～71頁〕■本の紹介〔71頁〕■山河抄＝武蔵野哀情／小林図〔72頁〕■山河抄＝越の松原／山本修之助〔72～73頁〕■啄木のふるさと／浦田敬三〔73～74頁〕■銚子犬吠行／林原茅蓬〔74頁〕■武蔵野とどこどころ（文学散歩のしをり）〔75～83頁〕■武蔵野抄／小池吉昌〔84頁〕■埼玉にのこる武蔵野／榎本了〔85～87頁〕■国分寺遺跡〔88頁〕■文学散歩郷土史通信〔89～92頁〕■「逃

げ水」考／桐後亭〔93～94頁〕■武蔵野文学散歩Ⅱ高麗／野田宇太郎〔95～105頁〕■文学散歩友の会規約〔106頁〕

『文学散歩』第二十四号「文学散歩友の会住所録」 一九六五年七月 表紙原色／奥村博史

【目次】■編輯記〔1頁目の前に別紙挿入〕■深大寺周辺と私／中西悟堂〔1～22頁〕■文学散歩友の会住所録〔23～39頁〕■日本文学百景22Ⅱ別れの杉は枯れた／野田宇太郎〔40頁〕■詩三篇／藤森成吉〔41頁〕■草村北星のこと／岡野他家夫〔42～45頁〕■わたくしの指環／奥村博史〔46頁〕■プロヴァンスのコント9Ⅱキュキュニアンの司祭／作Ⅱルーマニユ、訳Ⅱ村松嘉津〔47～52頁〕■プロヴァンスのコント10Ⅱ正覚坊／作ⅡE・マレル、訳Ⅱ村松嘉津〔52～56頁〕■獨歩の武蔵野地図〔資料〕／野田宇太郎〔57～58頁〕■文学散歩郷土史通信〔59～65頁〕■文学散歩友の会のバッヂが出来ました〔65頁〕■伊賀越の道〔東海文学散歩残稿〕／野田宇太郎〔66～76頁〕■文学散歩友の会規約〔昭和四十年七月改正〕〔77頁〕

『文学散歩』第二十五卷「特集 明治村記念号」 一九六六年九月 表紙写真〔明治村の風景と建物〕／名鉄提供

【目次】■明治について／野田宇太郎〔口絵〕■漱石と明治氣質／津田青楓〔1～2頁〕■渡し船と「はや舟」／石田幹之助〔2～4頁〕■隅田川の今昔／徳川宗敬〔4～7頁〕■將軍とオカラ／菊池重三郎〔7～9頁〕■塩焼く煙／福原麟太郎〔9～10頁〕■小学一年生の遠足／高橋邦太郎〔10～12頁〕■遠足と活動／渋谷秀雄〔12～15頁〕■中学入学試験の思い出／いちはしたく〔15～17頁〕■中学の思い出／曾宮一念〔17～18頁〕■時計について／藤森成吉〔18頁〕■言葉の変化／村松正俊〔18～20頁〕■明治の童戯／原田種夫〔20～22頁〕■思い出さまざま／村松きよ〔23～26頁〕■明治二十年代のころ／平塚らいてう〔26～30頁〕■日露戦争当時の想い出から／原田琴子〔30～32頁〕■明治の隅っ子／小林哥津〔33～39頁〕■明治ッ子／栗島すみ子〔39～40頁〕■日露戦争のあと／村松嘉津〔40～42頁〕■明治の父親と江田島／岩野喜久代〔42～45頁〕■静かな東京／小堀杏奴〔46～49頁〕■明治人の名残り／戸川エマ〔49～51頁〕■明治時代の庭園／田村剛〔52～54頁〕■美しいかな十九世紀の残照／本田正次〔54～55頁〕■明治の史蹟第一號／井上萬壽藏〔55～57頁〕■明治の温泉／

市島成一〔57～59頁〕■桔梗屋呉服店のこと／木戸久〔59～61頁〕■明治の環境／藤岡通夫〔61～62頁〕■鍵／福山雪〔63～65頁〕■明治村／野田宇太郎〔66～83頁〕■明治村の作文「めいじむら／はんだちえこ」〔84～85頁〕■明治村の作文「明治村について／中山伸幸」〔85頁〕■猫の家／太田博太郎〔86～90頁〕■「建築」という言葉／菊池重郎〔91～94頁〕■明治用語の変遷／春山行夫〔95～102頁〕■瓦斯灯草創期／内藤邇〔103～107頁〕■女童子石仏記／徳川夢声〔108～109頁〕■明治の書簡／徳田一穂〔110～114頁〕■明治初年の或る写真アルバム／岡本良知〔114～117頁〕■明治の佐渡／山本修之助〔118～121頁〕■明治文化に関する文献／岡野他家夫〔122～124頁〕■明治を憶う／中村庄八〔125～128頁〕■読書回顧／小泉五郎〔129～131頁〕■明治の人間／山内義雄〔132頁〕■乃木さんの思い出／松方三郎〔132頁～134頁〕■父のこと／向井潤吉〔134～135頁〕■O先生の思い出／石中象治〔135～138頁〕■明治初期の石版画目録／吉田小五郎〔139～143頁〕■あとがき／野田宇太郎〔144頁〕

資料「文学散歩友の会」趣意（雑誌『文学散歩』第一号より）

文学を愛するということは、人を愛し、その人を育てた風土を愛することでもあります。人間の歴史が自然の中で行われるように、文学も当然に自然の中で花開くものだからです。野田宇太郎の「文学散歩」一連の作品が刊行され始めてから、すでに十年になりますが、「文学散歩」という名称はいっしょに普通名詞となつてしまいました。そして文学散歩の読者を中心に始まった「東京文学散歩の会」は一般文学読者はもちろん研究者や評論家、詩人や作家その他歴史に興味をもつ人々によつてますます盛んになり、今日では東京以外の各地でも、「文学散歩の会」またはそれに類する催が盛んになりつつあります。特に文学や国語教育の関係教師、学生等の参加が目立つて来ていることは、文学散歩が社会教養といかに密接な関係にあるかを、雄弁に物語るものだといえましょう。しかし、各地方に互る文学散歩の同好者は、今日までお互いに交流する機関もありませんでしたので、貴重な発見や研究なども、そのまゝ、発表する機会もなく埋れさすよりはかはなかつたわけです。また、各地で「文学散歩の会」その他芸術や歴史に関する有意義な催があつても、その好機を逸することが多かつたと

思われます。そこで今回かねてからの同好者の熱心な要望に応じて「文学散歩友の会」を組織し、その機関誌として「文学散歩」を刊行することになりました。これによって、会員相互の連絡が保たれ、全国的な「文学散歩の会」の動きや、それに伴うニュースなども毎月知ることができることになります。またこのことは、将来の日本文学の発展のために、お互いの教養と情操とを高めるために、ひいては日本文化をいつそう明るくするためにもなると信じます。参加希望者は別項「文学散歩友の会」規約をご参照の上、至急お申込みいただきたいと思えます。

文学散歩友の会 責任者 野田宇太郎

付記

野田宇太郎が発行に関わった雑誌『文藝』（一九四四年十一月～四五年十二月）と『藝林閒歩』（一九四六年四月～四八年十月および一九五四年十月～五五年三月）については、井上洋子が『背に廻った未来——小郡市政三十周年・野田宇太郎文学資料館十五周年記念誌——』（野田宇太郎文学資料館、二〇〇二年十二月）のなかでその総目次を発表している。編集者としての野田宇太郎の業績については、この文献も併せてご確認いただきたい。

（おかの ひろゆき・皇學館大学文学部国文学科准教授）